

上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要

策定趣旨

- 1 位置づけ
・人口減少、少子高齢化の進展を最重要課題として推進する第二次上田市総合計画を基本とし、人口減少の歯止めと人口減少を踏まえた地域社会の維持・活性化に向けた施策を深化・展開
・まち・ひと・しごと創生法に規定する市町村版総合戦略として位置づけ、総合戦略の着実な実行により、若者層をはじめ、あらゆる世代が「住みたい、住み続けたい」と思う上田市を目指す。
- 2 対象期間
平成27年度から平成31年度までの5年間(毎年度PDCAサイクルによる検証、見直しを実施)

人口の現状・将来展望 (上田市版人口ビジョン抜粋)

- 1 現状
<総人口> 平成12年(2000年)の166,568人をピークに減少に転じ、平成22年(2010年)に159,597人
<自然動態>
・平成14年(2002年)を境に死亡数が出生数を上回り、その差が徐々に拡大し、自然減が拡大
・平成17年(2005年)以降、女性の30～34歳が出産のピークとなり晩産化が進行
・平成22年(2010年)の未婚率は男性19.6%、女性8.1%で上昇傾向
<社会動態>
・毎月人口調査統計において、平成23年(2011年)以降、4年連続転入超過
・若い世代は大幅な転出超過(男性20歳～29歳、女性20歳～24歳)
- 2 将来展望 [平成72年(2060年)]
<国立社会保障・人口問題研究所準拠推計90,696人> <市独自推計113,285人>
子育て支援策等の拡充により出生率を上昇させ、しごとの創出や移住・定住策により転入者を増やし、転出者を抑制することで社人研の推計に対し、約23,000人の人口減少を抑制

上田市創生の基本方針

戦略の施策構築と実行にあたっての基本的な考え方として5つの基本方針を設定

- 1 豊かな暮らしと人生を支える雇用の創出
- 2 若者の結婚・子育ての夢・希望の実現
- 3 人・地域を育てまちの活力を生む学園都市づくり
- 4 住み良いまち・うえだの魅力アップと積極的発信
- 5 安心の暮らしと健康長寿のまちづくり

基本目標・施策展開

上田市創生の基本方針を踏まえ、4つの基本目標を設定し、具体的施策を展開

基本目標 1 | 就業機会の拡大と多様性を創出する (上田で働きたい戦略)

ものづくり産業のイノベーションと多様な産業の集積と成長を促進するとともに、企業と就業希望者をつなぐ人材育成や雇用マッチングを促進し、意欲ある若者や女性が活躍できる環境を整備することにより、就業機会の拡大と多様性を創出する。

【数値目標】 従業者数(全業種):現状(H24年)69,198人 目標(平成31年)70,000人
産業が元気なまちになっていると感じる市民の割合:現状(H24年)10% 目標(H31年)20%

【施策展開】

地域経済雇用を牽引するものづくり産業の振興

次世代自立支援産業(健康・介護分野機器)創出、新分野進出・6次産業化等に取組む企業支援のための金融機関融資と協調した補助制度創設、上田市産業支援センター構築、ハッカソン及びアイデア試作・製品化支援

人材育成・雇用マッチングの拡充

大学等におけるキャリア教育推進、地元企業への就職を促進する奨学金制度検討、人材派遣会社等との連携によるキャリア教育推進、上田地域高等職業訓練センターとの連携強化、UIターン促進

若者等の多様な働き方の支援

コワーキングスペース事業展開支援、子育て中の女性のクラウドワーキング支援、テレワーク・サテライトオフィス促進、創業プラットフォーム活動促進、創業始期(創業～5年目)事業展開期(6～10年目)支援

農林業の稼ぐ力の創出

農産物ブランド化・ビジネス展開支援、担い手への農地集積・遊休荒廃地解消、ワイナリー・果物加工施設立地促進、農業への異業種参入促進、森林資源のバイオマスエネルギーへの活用推進

多様な産業の集積促進

金融機関・産業界・定住自立圏構成市町村との連携による誘致、本社機能・コールセンター・データセンターなどターゲットを絞った企業誘致、民有地への設備投資に対する市助成制度創設

基本目標 2 | 人口の自然減に歯止めをかける (結婚・子育てしたい戦略)

結婚、出産、子育ての切れ目ない支援と特色ある教育に取組むとともに、地域ぐるみで子どもを育む環境を整え、子どもを産み育てたいと思われるまちづくりにより、人口の自然減に歯止めをかける。

【数値目標】 合計特殊出生率:現状(H25年)1.54 目標(H31年)1.59

【施策展開】

結婚につながる出会いの応援

結婚相談事業実施民間団体との連携、セミナー・イベント開催

きめ細やかな出産・子育て支援推進

出産・子どもネウボラ整備、市立産婦人科病院・信州上田医療センター連携促進、中学3年生までの子ども医療費無料化、高校生の給付型奨学金制度創設、三世同居・三世近居支援、保育サービス充実、社会的支援が必要な子ども・家庭支援、放課後児童対策施設充実、多子世帯の子育て支援、ワークライフバランス普及・啓発、子育て人材ネットワーク強化

未来につながる特色ある教育の推進

サントミュージアムアウトリーチ推進、小中学校授業改善、信州型コミュニティスクール・土曜日の教育活動推進、長野大学の公立大学法人化検討、小中高大連携促進、4大学等共同「まちなかキャンパス」開設、高等教育機関等設置受け入れ検討(新潟薬科大学等)、政府関係機関誘致

基本目標 3 | 人口の社会増を伸ばす (訪れたい・住みたいうえだ戦略)

上田の暮らしや観光など様々な魅力をトータルで積極的に発信し、交流人口を拡大するとともに、移住相談から定住に繋げるきめ細かい受け入れ体制を構築し、若者からアクティブシニアまで幅広く呼び込み社会増を伸ばす。

【数値目標】 社会移動:現状(H26年)282人 目標(H31年)446人

【施策展開】

地域資源を生かした知名度アップと交流促進

観光まちづくりプラットフォーム(観光DMO)構築、真田ブランド活用促進、広域周遊観光ルート形成、菅平ブランド活用促進、外国人観光客誘客促進、滞交流型観光地づくり推進、歴史文化基本構想策定、「食」による観光振興、観光宣伝キャンペーン強化

移住相談、受入体制のワンストップ化促進

移住定住コーディネーター拡充、先輩移住者・地元住民・団体による相談・サポート体制構築、空き家情報バンク充実、農地バンク・空き店舗バンク構築、お試し就業(職場体験研修)事業推進

移住・二地域居住を促進する施策の推進

市内見学・体験ツアー実施、お試し居住事業実施、農業指導体制整備、移住者向け住宅確保・宅地提供、住宅改修費等助成制度検討、クラインガルテン・フォレストガーデン整備

基本目標 4 | 安心して暮らし続けられる地域をつくる (人・地域の輝き戦略)

人口減少社会に対応する行政経営と住民自治を推進し、市民の健康と暮らしの安心を守り、子どもからお年寄りまで誰もが元気で暮らしやすいまちづくりを目指す。

【数値目標】 健康寿命:現状(H22年)女性83.19歳 目標(H31年)延伸 男性78.92歳 目標(H31年)延伸

【施策展開】

安心の医療サービスが受けられる環境づくり

初期救急体制確保、二次救急医療体制・がん診療体制充実

健康寿命を延伸する施策の推進

健康づくりチャレンジポイント制度事業、各種ウォーキング・インターバル速歩事業実施、健康クラウドシステム導入、多様な地域資源・スポーツを生かす健康づくり、大学連携型CCRC検討

暮らしや観光に資する交通システムの維持・拡充

運賃低減バス本運行検討、鉄道の安全運行環境整備支援、自主運行バス・地域デマンド交通の運行支援、ICTによる路線バス運行情報発信、公共交通機関利用促進による健康増進

地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進

新たな住民自治組織設立促進、地域一括交付金制度構築、ふるさと投資(クラウドファンディング)制度導入、小さな拠点づくり、拠点集約型まちづくり計画策定、地域おこし協力隊員活動推進、知の拠点活用促進

まちとまち、人と人をつなぐ広域連携

○上田地域定住自立圏構想推進、広域エリアのものづくりの技術力を生かす新産業創出、長野・松本・上田トライアングル都市連携推進、ウィーナライン沿線自治体との観光連携、NHK大河ドラマ放送を生かす真田氏ゆかりの自治体との広域観光連携、北陸新幹線沿線都市との広域周遊観光ルート形成、シルクや忍者ゆかりの関連自治体等との観光連携